

主権者意識の基礎を育成する小学校社会科授業の開発と実践

松野 実／沖西 啓子／二階堂 年恵

平成 27 年 6 月に、選挙権を有する年齢が満 18 才以上に引き下げられ、これに伴い小学校においても主権者教育の重要性が検討されている。現在の小学校 6 学年の社会科においては、選挙の仕組みや選挙権を正しく行使することの大切さについては学習しているが今後は、より具体的な政治事象で実践的な学びを取り入れていく必要がある。本稿では、子どもたちの身近にある政治的課題について、自らの問題として考え、討論、判断するといった経験を通して主権者意識を育てる社会科授業の実践について報告する。

授業では実際の政治の働きと通底する要素が多い「学校の近くの空き地に作りたいと思う施設」をテーマに、施設の設置を公約とする模擬投票を行うこととした。児童には、事前に自分が必要だと思う施設とその理由を挙げさせ、その中で多かった 3 つの施設に代表者（市長候補）を設定した。

授業は、まず代表者となった児童に施設を作る理由について演説をさせた。その他の児童は、演説を聞いた後「どの施設が一番必要か」をグループワークで話し合い、その後自分の意見で投票をするという形で進めた。児童の中には、少数派の意見を尊重しながらも最後には多数決で決まるという選挙のシステムに違和感を抱いたものも見られたが、グループワークを取り入れたことによって、異なった価値観や考え方に触れ、自らの考えを広げたり深めたり、協働的な学習とすることができた。また、現実には施設を作る場合には、考慮しなければならない様々な問題や意見があるので、授業に時間をかけ、児童がそれらにどう対処していくのかについても考えを持って投票できるよう、今後は単元としての主権者教育を計画していきたいと考える。

1. はじめに

平成 27 年 6 月の改正公職選挙法の成立に伴い、選挙権を有する者の年齢が満 18 歳以上に引き下げられることになった。これに伴い「主権者教育」の必要性が強調されるようになった。子どもたちに身につけることが期待される知識や能力とはいかなるものかについて、国会においても議論がなされたが、特に、①現実の具体的政治事象を取り扱うことによる政治的教養の育成、②違法な選挙運動を行うことがないような選挙制度の理解を図ることとされた。

現在の学校教育においては主権者を育てる教育が「公民教育」として行われている。しかしながら主権者を育てるための政治教育にはなっていないと言える。

総務省に設置された「常時啓発事業のあり方等研究会」の最終報告書においては、「現代の求められる新しい主権者像として、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え自ら判断し、行動していく主権者が掲げられている。そして主権者教育の具体策として、「社会参加の促進」、「政治的リテラシー（政治的判断力や



批判力)の向上」が求められており、主権者としての資質・能力を高めるためには、知識を習得するだけでなく、政治的・社会的に対立している問題について判断をし、意思決定をしていく資質を育てるために、情報を収集し、的確に読み解き、考察し、判断する訓練が必要であると述べられている。

文部科学省でも、学校教育段階においては、児童生徒の社会参画の態度を育むため、社会で自立し、持続可能な社会の形成に参画するために必要となる具体的な内容を習得し、地域の抱える具体的な課題の解決に取り組む体験的・実践的な学習プログラムを開発し、その成果を普及するとしている。

このように主権者教育では、従来の知識中心の学習ではなく、政治・社会参加のためのスキルと態度を学び、個別具体的な問題に対応することのできるような学習が求められているのである。

現在、小・中・高等学校においては、学習指導要領に基づいて子どもたちの発達段階に応じて、憲法や選挙、政治参加に関する教育が行われている。小学校第6学年においては選挙の大切な仕組みや選挙権を正しく行使することの大切さについて学習しているが、今後はより具体的政治事象で実践的な学びを小学校段階でも取り入れていく必要があるだろう。

本稿では、現実に子どもたちにとって身近にある政治的課題について自らの問題として主体的に考え討論し判断していく学習活動を通して、主権者意識を育てていく社会科授業の実践報告を行う。

2. 指導案

①単元名：広島市長を選ぶ

②対象：広島市内の小学校6年生2クラス（1部40名、2部40名）

③実践日：平成29年2月27日（月）

④授業実施者：松野 実（広島文化学園大学大学院）

⑤単元（本時）の目標：空き地の利用方法を集団で決定する過程を通して、一人ひとりの考えや決定が大切なことに気づき、これによって主権者意識の基礎を養う。

⑥教材観

本時は、第6学年の2月の児童を対象としており、児童は小学校での教育課程をほぼ修了した状態であるといえる。

本時は、平成20年版の小学校学習指導要領第2章第2節社会の第6学年（2）ア「国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること」に基づいた内容として位置付けられる。また、内容の取扱いにおいては、「国会などの議会政治や選挙の意味……についても扱うようにすること」が明記されており、選挙は国民や住民の代表者を選出する大切な仕組みであること、国民の代表者として選出された国会議員は国民生活の安定と向上に努めなければならないこと、国民や住民は代表者を選出するため、選挙権を正しく行使することが大切であることを考えさせる必要がある。しかし、政治という抽象的な概念を扱う単元のなかで、ややもすると政治の仕組みや働きに関する用語を暗記するなどの表面的な学習に陥りやすい内容である。近年の公職選挙法改定による選挙権の引き下げを受け、小学校でも選挙についての体験的な授業を実施している例が散見されるが、その取り組みは依然検討段階であると言わざるを得ない。若者の主権者教育の重要性が高まるであろうと予見される中で、小学校教育で選挙の意味を扱う際、このような体験的な学習の意義はますます高まると思われる。

先行事例の中では、模擬投票を取り入れているものが多くある。模擬投票を行う際、代表者として架空の人物を設定するもの、教師や外



部の協力者など大人を代表者として設定するもの、児童が代表者になるものなどが想定される。本時では、学習者自身が代表者となることで、選挙の意味を体験的、主体的に学び取ることを意図して、児童が代表者となる模擬投票を取り入れた授業を構想する。

児童中心の模擬投票を行うに当たって、代表者となる児童には、彼ら自身で公約を宣言させることが望ましい。しかし、漠然と「地域の代表者になってどのように町を変えたいか」と問うても発問の範疇が広すぎる。そのため、題材の焦点化を図る必要がある。本時では、授業をするに当たっての事前手続きとして「小学校の近くに大きな空き地があるとしたら何をつくりたいか」という教示を与え、最も回答が多かった施設を3つ抽出した。そして、3つの施設のそれぞれについて1人ずつ代表者を選定し、代表者には授業当日までに当該施設を設置するための演説を準備させた。

空き地に施設を建てるという内容を設定した理由は以下の通りである。第一に、教示内容が簡潔に焦点化しており、小学生でも考えやすい内容であるからである。第二に、どのような施設を設置するのが良いか考える際には、その施設を利用する者のことを想定しなければならず、実際の政治の働きと通底する要素が多いと考えられるからである。

また、授業を実施するに当たっては、本物の投票箱や代表者用の襷など、具体物を多く取り入れる。さらに、代表者を広島市長候補とし、当選した児童に広島市長という称号を与える。これらの具体物やキーワードを活用することで、主体的な学習につながると考えられる。そして、模擬選挙を通して体験的に選挙の雰囲気を感じ、選挙に対する興味・関心を高め、主権者としての意識の素地を培う一助となることが期待される。

なお、本時は模擬投票を扱った授業の実施可能性の検討も含め、投げ込み式1時間構成で授業を行う。

⑦児童観

今回の授業は、広島市内の小学校の6年生(2クラス)を対象とした。対象の学級(1部・2部)の児童は、それぞれ1クラス40人で構成されている。上述したように、授業実施時期から小学校のほとんどの教育課程を修了している段階であり、政治の働きの単元も終えている。また、授業実施日にはほとんどの者が中学受験を終え、卒業式を控え比較的落ち着いた状態であるといえる。大学附属の小学校ということもあり、対象児は低学年の頃から研究授業や外部講師による授業を多く経験している。

授業実施者は、私立大学大学院に所属している大学院生であり対象児との面識は全くない。しかし、後述する事前アンケートや代表者を決める手続きの過程で対象児は外部講師による授業があるということを理解している状態であると思われる。担任教諭によれば、対象児は授業が始まる数週間前から模擬投票に対する意欲が高かったようである。

以上のことから、授業実施に当たってのレディネスは整っているといえる。彼らの持てる能力や学習意欲を活かし、どのように授業に取り込んでいくかが重要であるといえよう。

⑧指導観

指導に当たっては、「空き地の利用についての演説を聞きながら、どれが一番必要なのかを決める」という「めあて」を提示し、それぞれの代表者が設置したい施設をつくる理由(公約)を宣言し、彼らの演説を基にどの施設をつくるのが良いかグループ学習形態で考えさせる。演説については、担任教諭とも連携を取り、代表者の原稿を確認し、それぞれの児童の主張の要点を把握しておく。また、演説前に〇〇党



(児童の建てたい施設名：e.g. 公園党)と児童の名前が記された櫛を着けさせ、代表児の意欲を高めるとともに、他の児童の注意が演説者の方に向くよう配慮する。

グループ学習は、本時の中心的な活動である。児童の関心は、どの施設や代表者が一番なのかを投票で決めるというところにあると思われる。しかし、演説の後すぐに投票するのでは、ただの人気投票に終始してしまうであろう。グループ学習を通して、初発の意見が変わったり、多角的に考察することで自分の意見の根拠をより確かなものにしたりすることができると思われる。そのため、演説と投票の間のグループ学習の時間を十分に設け、児童の考える時間を大切にしたい。

また、代表者は、グループ学習の間、白手袋を渡し、各グループへ挨拶まわりをさせる。実際の選挙における代表者の役を楽しみながら演じるとともに、各グループの児童にそれぞれの施設の良さを直接伝えることで投票を行う児童の思考材料の一つになればと考える。

話し合いの後、投票、開票を行い、授業をまとめる。開票時には、当選した児童の喜びに共感するとともに、落選した児童の悔しさも受け止めることができるように努める。授業の最後には、選挙権獲得年齢の引き下げに触れ、政治の働きや選挙への関心を持たせる。

⑨授業実施における手続き

本授業の実施に際して、授業実施1か月前ごろ、対象児にアンケートを実施した。アンケートの内容は、①小学校の近くに空き地があったら何をつくりたいか(最大3つ挙げ、その中で最もつくりたいと思うものの一つを選択する)、②選択した施設をつくりたい理由の二点である。

このような手続きにより、児童が何をつくりたいか真剣に考えた結果得られた題材をボトム

アップ的に抽出し、設置する施設の候補を教師側が設定することで、児童が自分たちの問題として考え、投票できるようになることが期待される。児童は理由を含めて自分がつくりたい施設について回答しており、回答した内容は本当に自分がつくりたいものを反映しているであろうと思われる。

なお、アンケートの集計結果、各クラスの最も希望者が多かった3つの設置候補の施設として、1部では公園、保育園、図書館が、2部では公園、公民館、老人ホームがそれぞれ選択された。

各学級担任の協力の下、それぞれの候補施設を選んだ児童の中から代表者を決めてもらい、各学級3人の代表者を選出した。その後、小学校と何度か連絡を取り合い、授業実施前に各代表者の演説の原稿を確認できる状態になった。演説の内容の一部を以下に示す(原文)。

・1部代表者(公園)

私は、学校の近くの空き地に公園をつくったらいと思います。理由は、公立の小学校に通っている人はだいたい学校の近くに住んでいます。だから、友達と遊びたくなったら、待ち合わせをして、遊んだり、家に帰ってから公園に行っても友達と遊んだりすることができ、楽しいと思います。それに学校の近くだから何かあってもすぐに大人の人に伝えることができます。だから私は、学校の近くの空き地に公園をつくったらいと思います。

・1部代表者(保育園)

私は、空き地に保育園をつくるのが最適だと思います。今、日本では待機児童がたくさんいます。待機児童は多い地域では1,000人をこえ、多い都道府県では、1万人をこえています。この問題の原因は、保育園の先生の人手不足という理由もありますが、ほかにも保育園の数自体が不足していることも、理由の一つかも



しません。これが起こると、働きたくても子どもを預けられなくて働けない人も出てきます。また、去年には保育園に落ちたことが原因で「保育園落ちた日本死ね」という流行語がはやるといふくらい深刻な問題になりました。子どもたちが日本の未来を支えています。親が安心して働ける、また、子どもが安心して過ごすためには、やっぱり保育園は必要だと思います。子どもは国の宝です。Child first!!

・1 部代表者（図書館）

私は空き地に図書館をつくることを提案します。なぜなら、社会で学習したように人には「かしこくなる権利」があります。小学校の隣ということもあるので、小学生もお金を持たずに出入りができる図書館が良いと思います。そして小学生同士で勉強ができたり、ほかの近所の方々と交流ができたりするのも良い点だと思います。ただ一つ欠点があります。図書館内での過ごし方です、この問題点さえ解決すれば市民にも役に立つ素晴らしい施設になると思います。

・2 部代表者（公園）

ぼくは空き地に公園をつくることを望みます。どうしてぼくが公園をつくるのが良いと言ったかという、いろんな世代の人のいこいの場となるからです。子どもの遊び場になったり、中年や年配の人たちの休けい場になったり、公衆トイレで用を足したり、お弁当を食べたり、いろいろな用途に使えます。また、木や花を植えることで、車いすの人も簡単に草花の鑑賞をすることができるので、そういうところも公園の利点です。よって、ぼくはマンションや公民館よりも、さらに多目的で使用するののできる公園を空き地につくることを望みます。

・2 部代表者（公民館）

空き地に何を建てるかという題ですが、ぼくは公民館が良いと思います。僕がなぜ空き地に公民館を建てようかと思ったかという、今現

在「地域の人々とふれ合い、良好関係をもつ」ということが重要視されていないからです。戦前から、1970 年ごろまでは、地域の人々とふれあう機会も多かったため、相手とのコミュニケーション能力も今よりは高かっただろうと思います。しかし、最近の若い世代の人々は、地域の人々とのふれあいをまったく大切にせず、スマホ、ゲームなどに夢中になっています。だから、これからの未来のためにも、これからの社会をになう若い人々にコミュニケーション能力を公民館という身近な場所で養ってもらいたいのです。

・2 部代表者（老人ホーム）

私は小学校の近くの空き地に老人ホームを建てると思います。理由は以下の2つです。まず、第一の理由はこれから起こるであろう高齢者の介護不足に備えるためです。厚生労働省によれば、2025 年には介護職員が 253 万人必要とされていますが、見込みでは 215 万人しかいないそうです。また広島市でみても、現在高齢者が 282,939 人で、1 年ごとに約 9,000 人増える計算になります。ですから、私は老人ホームを建てることをおすすめします。第二の理由は、地域の交流を深めるためです。空き地は小学校に近く、閉ざされた空間にいる高齢者を小学生が教育活動の一環としてボランティアなどを通して、高齢者には活力を、小学校の児童には地域について考えるきっかけを与えます。以上の理由から、私はこの空き地に老人ホームを建てることをおすすめします。

⑩評価規準

○社会的事象への関心・意欲・態度

空き地の利用方法を模擬選挙により決定する過程において、政治や選挙に対する興味・関心をもち、一人一人の考えや決定が大切なことに気付く。



○社会的な思考・判断・表現

空き地の利用方法について、代表者の演説をもとに自らの考えを持つとともに、他児との話し合いを通して、地域社会にとってどのような利用方法が適切なのか決定し、投票することができる。

⑪学習過程

本時の学習過程は、次のように進行した。以下、本時の学習過程の概要を記す。

導入部では、授業実施者の紹介の後、各クラスでつくりたいという意見の多かった施設を確認した。そして、本時の学習活動の大まかな流れを説明し、「空き地の利用についての演説を聞きながら、どれが一番必要なのかを決める」という「めあて」を確認した。

展開部は大きく代表児（市長候補）の演説、どの施設をつくるべきかの話し合い、投票・開票といった3つの学習活動に分けられる。

市長候補の演説では、それぞれの施設の魅力や設置すべき理由を、市長候補となった児童3名に、準備しておいた演説内容の原稿をもとに教卓で発表させた。このとき、市長候補の児童には、党名と児童の名前の入った襷を掛けさせ、児童が学習に意欲的に参加できるように工夫をした。

どの施設をつくるべきかの話し合いでは、演説の内容をもとに市長候補以外の児童に学習班で話し合いをさせた。この活動の前に、ワークシートに自分の意見やその理由を書く時間を十分に設け、話し合いがより活発になるよう配慮した。また、市長候補の児童にはこの時間を活用して挨拶まわりをさせた。実際の選挙における代表者の役を楽しみながら演じるとともに、各グループの児童にそれぞれの施設の良さを直接伝えることでそれぞれの児童の思考材料の一つになることを意図している。

投票・開票では、市長候補以外の児童から1

名有志を募り、「選挙管理委員」として開票作業の手伝いをさせた。投票箱は、実際の選挙にも使用されるものを用意し、体験的な学びを心掛けた。

終末部では、模擬投票を終えて、実際の選挙を意識した話をした。選挙権の獲得年齢が18歳に引き下げられたこと、児童らが選挙権を獲得するまであと6年であること、少数意見だから意味がないのではなく、少数意見だからこそ尊重される部分もあり、これからの政治の動きに少しでも関心を持つように促すことなどを確認し、投票の結果から、選挙に勝った・負けたという議論に終始することのないよう努めた。

以上の流れで授業を展開し、授業の終わりにワークシートを回収した。



時間 (分)	学習活動	指導上の留意点と発問	評価の観点と方法
5	(教師の紹介) 1. 本時の活動を知る。 ・事前のアンケート（【資料1】参照）の調査結果から、教師が選定した空き地につくとよい3つの施設（A・B・C）を把握する。	・どのような施設案が多かったか、児童に予想させ、主体的に学習に参加しやすくする。 ・授業全体の大まかな流れを説明する。	・それぞれの施設の添付カード
空き地の利用についての演説を聞きながら、どれが一番必要なのかを決めよう。			
5	2. A・B・Cの施設のそれぞれの代表児が市長候補となり、その施設をつくりたい理由を発表する。	・本時のワークシート（【資料2】参照）を配布しておく。 ・市長候補には襷を掛けさせる。 ・市長候補以外の児童には、市長候補の話聞いてから、自分はどの施設をつくりたいか考えるよう指示する。	・それぞれの施設名と児童名の入った襷 ・本時のワークシート
5	3a. 市長候補以外の児童は、A・B・Cのどの施設をつくってほしいか、また、その理由をワークシートに書く。 3b. 市長候補は教師の話を聞く。	・3～5分程度でワークシートを記入するように伝え、机間巡視を行い児童の進捗状況を把握する。 ・他の児童がワークシートに記入している間、市長候補の児童には次の学習過程（班ごとの話し合い）と、市長候補の役割（自分を推薦してもらえよう、班を回ること）を伝える。	・白手袋
8	4a. 班机になって、それぞれの班でどの施設をつくるとよいか話し合う。	・聞き手の児童には、大事だと思うところについて、ワークシートのメモ欄を活用し、メモをとりながら聞くよう指示する。 ・途中で市長候補の児童が来たときは、市長候補の話に耳を傾けるよう伝える。	



8	<p>4b. 市長候補は、班ごとに自分を推薦してもらえよう、挨拶まわりをする。</p> <p>5. 班ごとにどのような意見や話合いがなされたか、班の代表が発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市長候補以外の児童の話し合いの時間を確保するため、3人まとまって挨拶まわりをさせる。 ・自分の班ではどの意見が多かったか、その理由とともに発表させる。 ・少数意見としてはどのようなものがあつたかも尋ねる。 	
7	<p>6. 投票・開票する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市長候補を教卓に集める。 ・投票用紙を配布し、書き終えた児童から投票箱に投票させる。 ・市長候補以外の児童1名を選挙管理委員として、開票作業の手伝いをさせる。 ・開票し、一番得票数の多かった市長候補に首飾りを掛ける（黒板に書いた児童の名前に花飾りをつける）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・投票用紙 ・投票箱 ・首飾り・花飾り
7	<p>7. 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集団で物事を決定する過程が、選挙の基礎として大切であることを伝える。 ・少数意見や、自分の希望が叶わない場合があり、多くの人が納得する決定をするために一人ひとりが社会参加していく必要があることをまとめ、授業後のワークシート（【資料3】参照）を配布する。 ・授業中に書いたワークシートを回収する。 <p>※授業後のワークシートは、学級担任の協力を得て後日回収する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後のワークシート ○空き地の利用方法を模擬投票により決定する過程において、政治や選挙に対する興味・関心をもち、一人ひとりの考えや決定が大切なことに気付く。 ○他児との話し合いを通して、空き地に何を作ることが地域社会にとって適切なのか判断している（授業内・授業後のワークシート）。



⑫板書計画（1部6年）

広島市長を選ぶ

めあて 空き地の利用についての演説を聞きながら、どれが一番必要なのかを決める

公園 ○○さん 理由

保育園 △△さん 理由

図書館 □□くん 理由

投票

○ △ □

正 正 正

3. 実践結果と考察

①模擬投票の結果

模擬投票の結果、1部では保育園党、2部では公園党が当選した。

②ワークシートの評価

②-1. 授業内に配布したワークシートの検討

授業内に配布したワークシート（【資料2】参照）の検討を以下に示す。このワークシートは、①空き地に何をつくりたいか、②①に書いたものをつくりたい理由、③グループワークにおけるメモ、④班の人の意見を聞いて、感じたことや考えたことの4つの設問から構成されている。ここでは②と④を取り上げ、グループワーク前に児童が考えた理由とグループワーク後に考えたことを検討する。

②-1-1. 施設をつくりたい理由

市長候補の演説を聞いた後、その施設をなぜつくりたいか児童に記入させた。以下、施設ごとに特徴的であった記述を示す。

○公園（1部）

- ・子どもが遊ぶ場所をつくれれば便利
- ・学校の近くにつくれれば利用しやすい
- ・地域交流ができる

○保育園（1部）

- ・待機児童の問題があるから（半数以上が記述）
- ・これからを背負う子どもを大切にすべき

- ・親の負担を減らすため

○図書館（1部）

- ・いつでも勉強ができるから
- ・誰でも無料で利用できるから

○公園（2部）

- ・子どもからお年寄りまで、いろいろな人が利用できる
- ・いろいろな目的で利用できる
- ・自然を大切にできる
- ・運動不足の解消につながる

○公民館（2部）

- ・地域の人と交流ができる
- ・気軽に利用できる

○老人ホーム（2部）

- ・市長候補の演説は、具体的な数値を挙げており、説得力があった
- ・高齢化が進んでいるから
- ・お年寄りと小学生が交流することができる

②-1-2. 班の人の意見を聞いて感じたことや考えたこと

グループワークを終えた段階で、初発の意見と異なった施設に変更した児童が何名かみられた。また、当初の意見と同じ意見であった児童においても、他の児童の意見を取り入れていた様子が見られた。以下、特徴的であった児童の記述を数名抜粋する。なお、個人名が記載され



ている箇所は伏せる。

・みんな待機児童のことを書いていました。その中でも〇〇さんの「日本の経済が回らなくなる」という意見がすごく印象に残っています。子どもが保育園に預けられないと日本中が困ってしまうこともあるかもしれないなと思いました。(1部女子：保育園→保育園)

・やっぱり、公園の方が小さい子どもから老人の方々全ての人に対し行きやすいものであり、公園に少し工夫を加えることによって、楽しく交流できる場所へと変わり、地域の活性化につながるからです。(2部女子：老人ホーム→公園)

・班の人も、私と同じで公園の人が多かったです。でも、老人ホームの人もいました。老人ホームは高齢化に対応しなくてはならないという意見は納得しました。でも、人が一番集まるのは公園で、地域の方とのふれあいも多いと思うので私は〇〇君を市長にします。(2部女子：公園→公園)

以上に例示した児童の他にも、他の児童の意見を参考に自分の意見を確立している記述をしている児童が多くみられた。演説と投票の間のグループワークにより、他者の意見を尊重しつつ自分の意見を主張するという主権者意識の芽生えがなされたと考えられる。

②-2. 授業後に配布したワークシートの検討

授業後に配布したワークシート(【資料3】参照)の検討を以下に示す。このワークシートは、①自分が選んだ市長候補が当選したかどうか、②投票した市長候補が選ばれた(選ばれなかった)感想、③話し合いにおいて大切だと思うこと、④授業の感想の4つの設問からなる。以下、設問ごとの検討を示す。

②-2-1. 自分が選んだ市長候補が当選したかどうか

自分が選んだ市長候補が当選したかどうかに

ついて、1部では、投票した市長候補が当選したのは26名、当選しなかったのは9名であった。2部では、投票した市長候補が当選したのは23名、当選しなかったのは14名であった。

②-2-2. 投票した市長候補が選ばれた(選ばれなかった)感想

投票結果についての感想では、選ばれてうれしい、選ばれなくて残念だといった記述をしている児童が多くみられた。また、選ばれなかった児童の記述には、少数派の意見も大切であるといった意見が多くみられたが、選ばれた児童の中で少数派について触れている記述は少なく、自分と同じ意見の人が多くて良かったというような記述が多くみられた。さらに、選ばれなかった児童の中には、少数派であるがゆえに、自分の持つ1票の力の小ささに言及している児童もいた。

②-2-3. 話し合いにおいて大切だと思うこと

話し合いにおいて大切だと思うことについては、投票した市長候補が当選したか否かに関わらず、ほぼすべての児童が自分の意見を主張すること、若しくは相手の意見を尊重することについて言及していた。特に、相手の意見をしっかりと聞いたうえで自分の意見を伝えるといったことは多くの児童が述べており、社会科に限らず平素の授業におけるグループ学習の成果がみられたのではないかと考えられる。このような能力は、昨今注目されているアクティブラーニングと通ずるものがあり、主権者意識は主体的な学習態度を基礎として育まれるものであると考えられる。

②-2-4. 授業の感想

最後に、授業全体の感想の記述を求めた。様々な意見があったが、政治や選挙について書かれたもの、他者との話し合いについて書かれたもの、どのような施設をつくるのが良いか書かれ



たものが多かった。以下、代表的な記述を抜粋する。

○政治や選挙について書かれたもの

- ・約6年後には、これよりもっと本格的な選挙をするので、もっともっと政治に関心を持っていきたいです。(1部男子：保育園→保育園)
- ・相手の意見に対する自分の意見によって市長を決定することがとても大きなことだと思いました。これから何かに投票する際は、そのことに対して大きな興味を持ち、責任をもって投票していきたいと思います。(1部男子：保育園→保育園)
- ・短い時間で大まかな流れだけだったけど、大体の選挙の流れはわかり、楽しかった。そして、大勢の人に対する発表（スピーチ）をするときの工夫も少し見つけられたと思う。最終的に選挙っておもしろそうだなと思いました。(2部男子：公園→公園)

○他者との話し合いについて書かれたもの

- ・選挙というのを少しだけ体験した。みんなの意見と自分の意見、どこが同じでどこが違うのか考えられてよかった。(1部女子：保育園→保育園)
- ・今日の授業は3人の人が演説をしたりすることが初めてで新鮮でした。また、「この人の意見に賛成」で終わるのではなく、他の人の意見も聞いて改めて考えることができたので良いと思いました。(2部女子：老人ホーム→老人ホーム)

○どのような施設をつくと良いか書かれたもの

- ・この施設を建てることによって、だれが喜んで誰が喜ばないのかを考え、より多くの人が喜ぶ施設を建てるように班で相談することで、自分の考えたことに他の人が考えたことを合わせて考えられました。また、自分とは異なる意見でも、参考にし、さらに意見を固めることがで

きるようになったと思います。(2部男子：公園→公園)

4. 授業の意義と課題

本時の意義についてまず挙げられるのは、小学校段階での主権者教育を実践することによる、政治的関心の意識付けである。模擬投票については中学校や高等学校での報告が多くある。例えば、黒田は高校生を対象に立候補者の立場から選挙を考えさせ、国民の多様な意思を政策決定過程に反映させることが選挙の機能でありながらも、立候補者が選挙において当選することのみを優先する場合、投票を期待できない有権者層はその要望を軽視され、負担を強いられる危険性に気づかせる授業を構想している。こうした選挙システム自身が持つ問題については、本時においても、少数派の意見を尊重しながらも最後には多数決で決まるというジレンマに対する違和感という形で言及していた児童がみられた。本時は、黒田のように問題意識を焦点化したり、具体的な政策について多様に考えさせたりするような内容ではないが、対立する政治的場面を想定し、選挙の意義について考えることができたという点で、小学校段階における主権者意識の醸成といった役割は果たせたのではないかと考える。

さらに、本時ではグループワークを取り入れることにより、他の児童と多様な意見を交換できるよう工夫した。広島県教育委員会 は、主体的な学びの推進にあたり、課題発見・解決学習を展開している。そのうちに求められているものの一つとして、協働的な学習の充実が挙げられている。ここでの「協働」とは、「他者と関わることにより、異なった価値観や考え方に触れ、自らの考えを広げたり深めたりしながら他者と考えを共有し、共に行動に移すこと」とされており、本時に取り入れたグループワーク



は他者の意見を聞くとともに自分の意見を確立するという点で、協働的な学習であったといえる。

最後に、本時の課題について述べる。第1に、少数派の意見だった児童の中には、1票が反映されないことを感じている児童がいたことである。選挙は最終的に多数決で決まる。そのため、自分が投票した代表者が大差で敗北すると、1票の重みを感じにくいかもしれない。同じ1票でも、一人ひとりに考えさせる時間を十分設けることで、児童に1票の意味や重さを考えさせることが重要であろうと思われる。また、選挙に敗れたからと言って、少数派の意見に意味がなくなるわけではない。選挙に参加するという狭義の主権者意識を超えて、一人ひとりが政治や社会にどのような考えをもって参加していくかということを尊重することにより、より充実した主権者教育を行うことができると思われる。

第2に、今回は1時間の投げ込み形式で授業を行ったため、各施設について詳細に調べることができなかったことが挙げられる。特に、1部の保育園については、「待機児童」という言葉がマジックワードとして機能していたが、保育園を設置する理由としてそれだけで十分であろうか。例えば、全国的に待機児童が問題とされているが、自分たちの住んでいる地域はどのくらい待機児童の問題が深刻なのか、どの程度の規模を想定すればよいのか、騒音等、保育園をつくることによる問題点にどう対処していくのかなど、実際に施設をつくるとなると様々な問題を考慮しなければならない。このような反論も踏まえて説得力のある演説ができるようにしていくために、投げ込み式の授業ではなく、単元として主権者意識を育む授業を構想していくことが有効であると思われる。

今後は単元としての模擬投票を取り入れた主

権者教育を計画していきたいと考える。

【参考文献】

- ・総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来 有権者として求められる力を身に付けるために』2015年。
- ・明るい選挙推進協会『Voters』No.35, 2016年。
- ・岐阜県教育委員会『「主権者教育」の推進～主権者としての自覚と社会参画の力を育む教育～ 岐阜県版指導の手引き 一小・中・高・特別支援学校用一』2018年。

【引用文献】

1. 田中治彦・藤井剛・城島徹・岸尾祐二『やさしい主権者教育 18歳選挙権へのパスポート』東洋館出版社, p. 6, 2016年。
2. 総務省『常時啓発事業のあり方等研究会・最終報告書』2011年。
3. 文部科学省「主権者教育の推進」<http://www.mext.go.jp/>
4. 文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社, p. 91, 2008年。
5. 同上, pp. 88-93。
6. 「小・中学校から始める「主権者教育」」教育開発研究所『月刊教職研修』No. 517 9月号, 2015年。
7. 黒田和義『「立候補者」の立場から選挙を考えさせる授業』『社会科navi』12, pp. 6-7, 2016年。
8. 広島県教育委員会『平成29年度広島県教育資料』pp. 98-168, 2017年。



Development and practice of a social studies class for cultivating autonomous thinking

Minoru Matsuno Keiko Okinishi Toshie Nikaido

The voting age in Japan was lowered to 18 years in June of 2016, and the importance of education for developing autonomous thinking in elementary schools has been focused. At present, students in the 6th grade social studies classes learn about elections and the importance of properly exercising their voting rights. It is suggested that more practical learning of concrete political issues should be introduced in the future. This article reports on the methods used in social studies classes for cultivating autonomous consciousness, by thinking about, discussing, and judging political issues that surround the students.

In the class, students conducted mock voting on “the type of facilities they want to build in the vacant lot near their school,” which included various events leading to actual political functions. Students were requested in advance to list the facilities they want to build and the reasons for believing that they want to build them. As a result, it was indicated a majority of students wanted to build three types of facilities. Then, the representatives were chosen for supporters of the three types of facilities respectively. First, each representative made a speech on why they wanted to build the facility. After listening to the speech, other students discussed “the most needed facility” through group work, and voted based on their opinion. There were certain students that had doubts about an electoral system in which the final decision is made by a majority vote, even though minority opinions are respected. However, in group work, students widened and deepened their perspectives through exposure to different values and thoughts, which resulted in cooperative learning. There are various problems and opinions to be considered when the facilities reached the stage of being built. Therefore, more time was necessary for students to consider when dealing with these issues and vote based on their opinions. It is suggested that a learning unit for developing autonomy should be developed in the future.

キーワード :

主権者教育 Sovereign Education 社会科 Social Studies 授業実践 Class Practice

所属名 : 松野 実 広島文化学園大学大学院

沖西 啓子 広島市立大芝小学校

二階堂年恵 広島文化学園大学

ワークシート(社会)

(男子 女子)どちらかに○

あなたは、広島市の市長候補です。市長候補として、次の質問に答えてください。

1. あなたの小学校の近くに、空き地があります。地域の人たちで、そこに何を建てるか話し合っています。あなたは、空き地にどのようなものをつくとよいと思いますか。あなたが広島市長になったつもりで意見を、**最大3つ**書いてください。また、その中から、**もっともつくとよいと思うもの1つ**に、右のくうらんに「○」をつけてください。

2. 1 で「○」をつけたものは、なぜ、つくったほうがよいのですか。その理由を、次のうんにできるだけ多く書いてください。

資料 2

広島市長を選ぶ

名 前 _____

1. 空き地に何をつくりたいと思いますか？

2. 上に書いたものをなぜ、つくりたいのですか？

3. 班の友達はどんな意見を述べていますか？

4. 班の人の意見を聞いて、感じたことや考えたことを書きましょう。はじめにつくりたいと思っていたものが変わっていてもかまいません。

感想プリント

名 前 _____

1. 授業では、自分が選んだ市長候補が選ばれましたか？

はい・いいえ（どちらかに○）

2. 自分が市長になってほしいと思った候補者が選ばれて（もしくは選ばれなくて）どのように思いましたか？

3. 多くの人と話し合いながら何かを決定するとき、大切だと思うことを書きましょう。

4. 今日の授業の感想や、思ったこと、考えたことを書きましょう。